

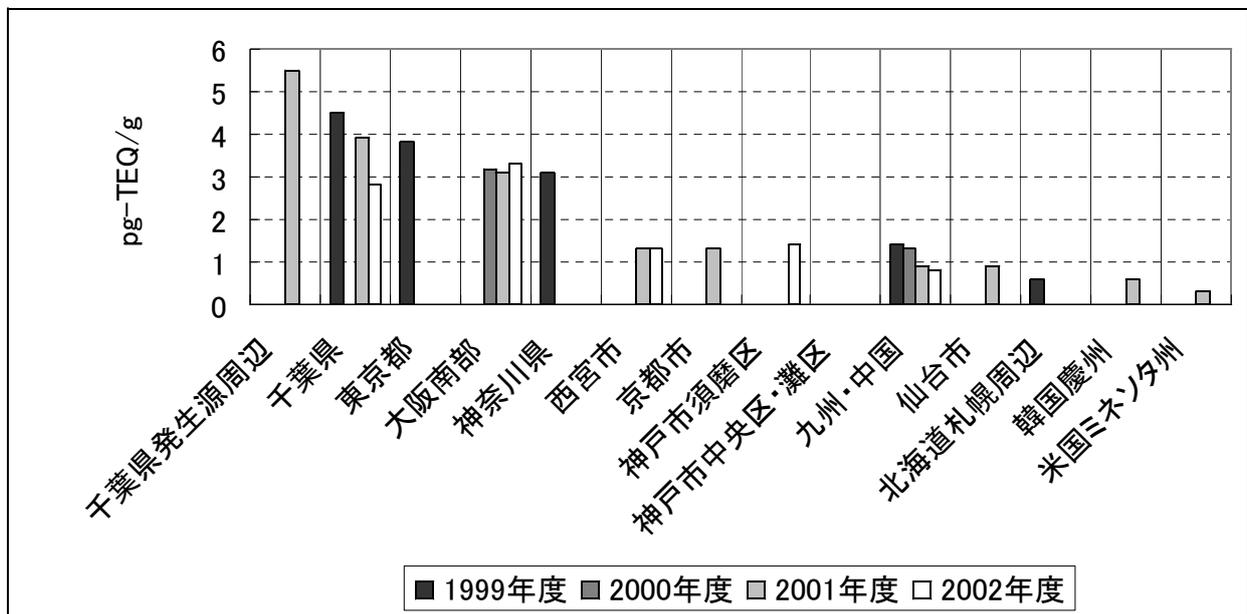
市民参加による松葉ダイオキシン測定分析調査 最新年度（2002年度実績まで）報告

池田こみち（松葉ダイオキシン調査実行委員会事務局）

1999年度に開始した市民参加による松葉ダイオキシン調査も今年2003年度で5年目に入りました。2002年度の参加団体は、生活協同組合の単協を含めると50団体・150地域、この4年間の測定対象地域は、全国550地域にも達しています。2002年度の報告会は、2003年2月～6月に掛けて各地（茨城県笠間市、栃木県宇都宮市、同上三川町、埼玉県川口市、千葉県船橋市、名古屋市、京都市、大阪府堺市、神戸市、広島市、山口県徳山市、福岡市、北九州市、福岡県大牟田市、長崎市、熊本市、大分市、鹿児島県始良郡）で開催され、全体で約1500名の参加がありました。

松葉調査も年々広がりを見せ、愛知県・三重県・岐阜県など中部地域の参加も少しずつ増えてきていますが、仙台市以外の東北・東海・北陸・信越・山陰の各地域はまだデータがありません。今後の参加を期待したいと思います。以下に地域別の経年変化を示します。

図-1 地域別経年変化



99年度から4年継続調査を行っている九州・中国地域や大阪南部地域のデータを見ると、2002年12月1日から施行された焼却炉の排ガス中ダイオキシン濃度の規制強化の効果はまだ十分に現れていないことがわかります。一部の地域では、順調に低下してきたものがわずかながら上昇に転じたところもありました。各焼却施設で規制強化への対応を行ってから1年余りが経過する2003年度夏以降の調査結果が期待されます。

次頁からの2002年度測定結果一覧には、裁判等のためにデータの公表ができない地域、また、事情により「非公開」となっている地域をのぞきすべてのデータを掲載しています。各地域の松葉の濃度がどのレベルにあるのか、について参考にして頂ければ幸いです。なお、松葉ダイオキシン調査の意義は、市民が自ら費用を負担し、地域の汚染レベルを知ることとともに、その結果を踏まえて、「脱焼却・脱埋め立て」に向け、積極的に情報発信し行政や事業者に向けて建設的な提案を行っていくことにあります。数値の高低に一喜一憂するだけでなく、是非得られた結果を活かして地域にあった活動をさらに力強く展開していただくことを期待いたします。

事務局では、松葉ダイオキシン測定活動の継続とともに、焼却炉に依存しない真の意味での「ごみゼロ社会」（脱焼却社会）を実現するため、カナダやオーストラリア・ニュージーランドなどの先進事例や、焼却施設・溶融施設の排ガス中ダイオキシン類連続サンプリングによるモニタリングシステムについてもご紹介していきます。焼却炉の問題はダイオキシンの濃度だけではありません。日本が、焼却大国から脱却できるよう引き続き皆様と力を合わせて行きたいと思っております。

★松葉調査に関しては、松葉調査実行委員会のホームページに研究成果とともに、各地の新聞記事などが掲載されておりますので是非ご覧下さい。（<http://www.eri.co.jp>）